みんなの里山再生へ!!

どんぐり通信 No.25

発行日：令和７年３月31日
発行者：やまなしどんぐりバンク
代　表：明石益夫
電　話：090-5562-5345
所在地：〒408-0105
山梨県北杜市須玉町
東向 2231 多麻 15-2

里山再生とは!!!!・・・

今年も里山再生は続きます。
春は植林の季節です。苗畑で育ったどんぐりの苗は、毎年春に里山に還されます（植林）。
里山といっても、実に多様な林況を呈しています。私たち「やまなしどんぐりバンク」はこのうち薪やホダギ等の伐採跡地に、耕作放棄地で育てたどんぐりの苗木を植林しています。
どんぐり苗の植林を始めて約１０年、植林した個所は２０カ所以上となり、その後の林況は様々です。これはその土地の所有者（すべて民有地）の意向を反映しています。「やまなしどんぐりバンク」では、かつて里山が元気だったころの姿を踏まえて、人と自然が共生する里山の姿を再生することを目標に活動を実施しています。
かつての里山は、その集落の住民が、彼らの生活の必要に応じて活用されてきました。しかし集落では多くが少子・高齢化・過疎化が深刻であり、里山もそれに伴い荒廃が進んでいます。
私たち「やまなしどんぐりバンク」では、荒廃した里山を、かつての人と自然が共生する元気で美しい里山へと再生すべく、どんぐり苗の植林地の維持・管理、混交林化、除伐・土壌の肥沃化等、様々な活動を実施しています。
今年も日々変化・成長する里山の健全な育成を目指した里山再生を実施します。多くの方々の様々なサポートを歓迎いたします。

今年度の活動予定

最新情報は
Facebook から▶

3月中旬～
植林・苗床づくり・播種

4月
里山の植物観察：芽吹き観察・山菜採取

5月中旬
苗畑で！芽吹きイベント

6～9月
里山再生イベント（植林地）
除草イベント（苗畑）

10月
どんぐり拾いイベント（べるが）

11月・12月
伐採イベント・新月伐採
（薪・ホダギ・たい肥作り）

3月
植樹祭・植林イベント

ボランティア・NPOボード
掲示
'25.7.05
期限
山梨県ボランティア・NPOセンター

苗畑で５月！
どんぐり苗の芽吹きです

１０月
どんぐり拾いイベント！
どんぐりひろって届けてね！

様々な実のなる森づくりへ

森を元気に！
ササ - 篠竹を竹炭に
そして里山へ！

やまなしどんぐりバンクからのお知らせ

「どんぐり通信 No.25」をお届けいたします。本通信は「やまなしどんぐりバンク」にどんぐりを預託してくれた皆様、イベントに参加された方、里山再生に関心のある皆様にお届けしております。また北杜市内の図書館・観光案内所等に常置しております。皆様の御意見・御感想・御要望等をいただければ幸いに存じます。

やまなしどんぐりバンク
代表：明石益夫　携帯▶090－5562－5345　Mail▶aka.satoyama@reinbow.plala.or.jp

本事業は、北杜市環境保全基金を活用した事業です

どんぐりコラム

今回のどんぐりコラムは学習院大学名誉教授・理学博士の諏訪哲郎先生です。先生は日本環境教育学会の元会長で八ヶ岳南麓在住、北杜ＳATOYAMAi イニシアチブ共同代表で里山での活動の実践家でもあります。さて！どんなお話が・・・・

六角堂で里山を満喫する（その１）

日本環境教育学会元会長　諏訪 哲郎

北杜への移住

2000 年春に北巨摩郡大泉村（当時）に移り住んだ。この春で四半世紀となる。

前々から田舎暮らしを計画していたわけではない。移住前年の晩夏、中国への調査旅行から帰国すると、妻が『田舎暮らしの・・』という雑誌を広げていた。「ふーん、田舎暮らしかぁ。いいかもしれないね」「もっと広々としたところで生活するのもありかなと思って」と妻。

このあたりはどうか、と妻が目星をつけていたのは長坂町。以前に教育実習の参観指導で訪ねた時、「八ヶ岳の南斜面で日当たりもよく、富士山も見えて、いいところだなあ」という印象を持っていた。

翌朝には早速レンタカーを借り、中央道を須玉で降りて、目当ての物件を紹介する不動産屋さんへ。目的の物件は中央道に近すぎて却下となったが、次に紹介された若林交差点近くの三角屋根の中古物件を即決した。

移住当初は、妻とともに周りの山々のピークを目指していたが、2 年もたつともっぱら里山散策ばかりになっていった。

白州の里山に六角堂を

中国の少数民族研究から東アジアの環境教育交流に軸足を移してほぼ十年が経過した 2007 年秋。ソウルの南のブンダンという町の自然学校を訪ねた。そこには子どもたちの創作用に様々な木の枝やドングリ、小刀やボンドなどが置かれた一階と、オープンスペースの二階からなる六角形の木造のあずまやが設けられていた。

「こんな空間が身近にあったら、どんなに素晴らしいことか？」と思い始めてほどなく、環境教育の仲間から、とある「社長」を紹介された。白州に 10 町歩ほどの山を持っており、その山の樹木を自由に伐って、気に入った場所に小屋を建てていい、という願ってもない話が飛び込んできたのである。

れっきとした東京の〇〇林業社の経営者であるが、若者や子どもたちと山で遊びまわるのを無上の喜びとしていた人物で、2008 年の夏以降、週末にはその「社長」が連れてくる若者たちとともに伐採、皮むき、乾燥（板は製材所に依頼）を進めていった。

家は四角、骨組みの材も角材に限る！

2010 年 5 月、いよいよ建て方開始。掘っ立て用の穴掘りには重機が活躍したが、中古の中古の重機は頻繁にキャタピラが外れてしまった。結局、3 個のチェーンブロックを大木に括り付け、3 方向からバランスを取りながら引き上げた。8m ほどの長さのクリの柱を一日一本ずつ計 6 本直立させていった。

作業の要所要所ではプロの大工を含む応援団が駆けつけてくれたが、晩秋から新緑の頃までは、一人で黙々と山のあちこちに切り倒していた材を現場に集め、一つずつ加工して組み立てていった。六角形の建物は床材も無駄が多く、丸太の胴縁に壁を作るのは困難を極めた。「ピュー、ピュー」と物悲しげな鹿の鳴き声を聞きながら「家は四角に限る、骨組みの材も角材に限る」との確信を深めていった。

お披露目の宴会、一番乗りはサル軍団

2013 年秋、完成には程遠いが、屋根も張り終えたところで、お披露目の宴会を計画した。もらい受けた分厚いガラス板付きの円卓も、前日までには東京から軽トラで運びこみ、チェーンブロックで引き上げて二階に据え付けた。もちろんガラス板もピカピカにしたはずであった。

しかしお披露目当日の朝、準備のために二階に上がったところ、円卓のガラス板の上にはクリの皮が散乱していた。そして、パイプ椅子のビニール製の座席には複数のサルの足跡が残っていた。サル軍団が一足先にお祝いに駆けつけてくれたようである。

今もなお、毎年田植え、稲刈りの時期には、東京から小学校教員を主とする応援部隊が六角堂で寝泊まりし、教育談議を展開している。